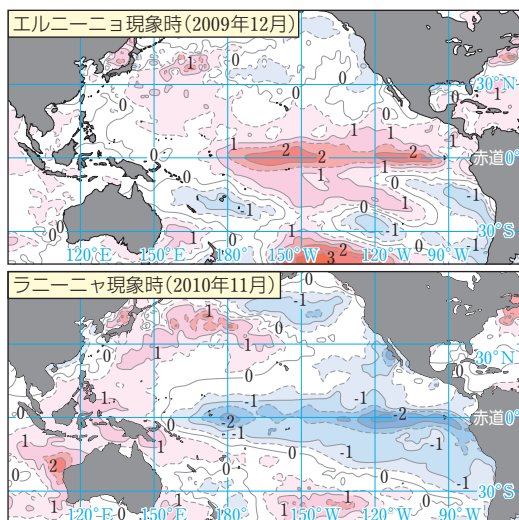


●エルニーニョ現象と気候の変化● エルニーニョ現象とは、p.136 でみたように、数年に一度、赤道太平洋東部の海面水温が広い範囲にわたって数℃上昇する現象である。赤道上の太平洋の海水は強い日射によって、海面水温が30℃以上になるまでに温められている。通常は、この海水は赤道を吹く貿易風(東風)によって赤道太平洋の西側に吹きよせられる。一方、赤道太平洋の東側では深海から冷たい海水がわき上がっているため、赤道太平洋の暖水層は東側で薄く西側で厚い(p.136 図 12(a))。しかし、貿易風が何らかの原因で弱まると、赤道太平洋東部へと暖水層が広がって、深海からの冷たい海水の供給がとまるため、東部の海水温が上昇し、エルニーニョ現象が起こる。エルニーニョ現象が発生すると、海水温が高く雲が活発に発生する場所が赤道太平洋西部から中部へ移動する。

このため、エルニーニョ現象が起こると、太平洋周辺部の高気圧、低気圧の現れ方が通常と違ってくる。日本では夏は北太平洋高気圧が弱くなるため、梅雨明けの遅れや夏の平均気温の低下が見られ、台風の発生も少なくなる。

冬は季節風が平年にくらべて弱くなり、気温が高くなることが多い。

エルニーニョ現象とは逆に、赤道太平洋東部の海面水温が広い範囲にわたって低下することがある。これを、^{a)}ラニーニャ現象とよぶ。ラニーニャ現象は貿易風が強まったときに起こり、日本では暑い夏、寒い冬になる傾向がある。



▲図 24 エルニーニョ現象時とラニーニャ現象時の太平洋の海水温の平年差 数値は平年値との差(℃)。

a) La Niña(スペイン語)